

## 先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム) 実績報告書

本様式の内容は一般に公表されます

研究課題名	日本の高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの開発
研究機関・ 部局・職名	千葉大学・大学院看護学研究科・教授
氏名	森 恵美

1. 研究実施期間 平成23年2月10日～平成26年3月31日

2. 収支の状況

(単位:円)

	交付決定額	交付を受けた額	利息等収入額	収入額合計	執行額	未執行額	既返還額
直接経費	80,000,000	80,000,000	0	80,000,000	80,000,000	0	0
間接経費	24,000,000	24,000,000	0	24,000,000	24,000,000	0	0
合計	104,000,000	104,000,000	0	104,000,000	104,000,000	0	0

3. 執行額内訳

(単位:円)

費目	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	合計
物品費	2,150,710	5,889,368	2,875,038	108,386	11,023,502
旅費	0	1,735,350	1,078,135	242,290	3,055,775
謝金・人件費等	0	8,434,620	19,684,731	19,192,702	47,312,053
その他	0	3,691,390	11,043,363	3,873,917	18,608,670
直接経費計	2,150,710	19,750,728	34,681,267	23,417,295	80,000,000
間接経費計	718,200	9,778,500	6,872,700	6,630,600	24,000,000
合計	2,868,910	29,529,228	41,553,967	30,047,895	104,000,000

4. 主な購入物品(1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの)

物品名	仕様・型・性能等	数量	単価 (単位:円)	金額 (単位:円)	納入 年月日	設置研究機関名
マイクロスリープ時計型アクティグラフ標準セット	サニタ商事	1	1,937,250	1,937,250	2011/3/22	千葉大学

5. 研究成果の概要

産後4か月間における産後の生活活動と身体的心理社会的健康状態に関する縦断研究の結果を踏まえ、産後6か月間における褥婦の身体的心理社会的健康状態に関するコホート調査研究により、高年初産婦の産後1か月までの子育て支援ニーズを明確にし、臨床的課題を設定した。さらに、システマティックレビューを用いて、エビデンスを抽出する研究を行った。そして、「診療ガイドライン作成ワークショップ資料集(暫定版、2013年)」の手順に従い、ガイドライン案を作成し、パブリックコメントや外部評価を受けた上でガイドラインを完成した。急増している高年初産婦の子育て支援は喫緊の社会的課題であることから、すぐに新聞社の取材や講演依頼等の反響があり、ガイドラインの臨床適用が進められることを期待されている。

課題番号

LS022

## 先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム) 研究成果報告書

本様式の内容は一般に公表されます

研究課題名 (下段英語表記)	日本の高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの開発
	Developing nursing guidelines for childrearing support in Japanese older primiparas
研究機関・部局・ 職名 (下段英語表記)	千葉大学・大学院看護学研究科・教授
	Chiba University, Graduate School of Nursing, Professor
氏名 (下段英語表記)	森 恵美
	Emi Mori

### 研究成果の概要

産後4か月間における生活活動と身体的社会的健康状態に関する縦断研究と、産後6か月間における身体的心理社会的健康状態に関するコホート調査研究の成果により、高年初産婦の産後1か月までの子育て支援ニーズを初めて明確にし、5つのクリニカルクエスチョン(CQ)を設定した。CQごとにシステマティックレビューを行い、本研究成果も含めてエビデンスを抽出し、世界初の高年初産婦に特化した子育て支援ガイドライン案を作成した。さらに、パブリックコメントや外部評価を受けて本ガイドラインを完成した。急増している高年初産婦の子育て支援は喫緊の社会的課題であることを反映し、本ガイドラインについて取材申し込みや講演依頼(3件)を受けている。また、本研究成果に基づいて文部科学省科学研究費助成金(基盤研究 A)に申請し、採択された。

Stage one of our research project was a longitudinal study to identify activities of daily life, and physical and psychosocial well-being of women during the first 4 months postpartum. The stage two study was a prospective cohort study to examine physical and psychosocial well-being of women during the first 6 months postpartum. These studies revealed childrearing support needs in older primiparas during the first month postpartum, which guided the development of five clinical questions. We conducted systematic reviews for each clinical question to extract a body of evidence. Studies from stage two were also included as evidence. We developed the draft guideline for childrearing support in Japanese older primiparas, and the world's first version of the guideline was

completed after being reviewed by a panel of stakeholders and consideration of public comments. Childrearing support in rapidly increasing Japanese older primiparas is an urgent social issue. We have appointments of an interview and three lectures about the guideline. We plan to study further about the guideline since Grants-in-Aid for Scientific Research (A) were awarded for our project.

1. 執行金額 104,000,000 円  
(うち、直接経費 80,000,000 円、間接経費 24,000,000 円)

2. 研究実施期間 平成23年2月10日～平成26年3月31日

### 3. 研究目的

本研究の最終目的は、高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの開発であった。近年、少産化の中で高年初産婦(35歳以上の初産婦)は20年前の2倍以上となった。日本の分娩施設では通常、年齢や経験が違う母親が画一的な集団指導を受けていることが多い。年齢や経産回数を考慮し、産後の身体的健康や生活状況まで含めた長期的な健康状態の経過を明らかにした大規模研究は見当たらなかった。そこで、最終目的を達成するために、以下のような目的で3つの研究を行った。(1)【研究1】は高年初産婦の産後入院中から産後4か月間の生活活動と健康状態を明らかにすること、(2)【研究2】は産後入院中から産後6か月までの褥婦の身体的健康状態、心理的健康状態、社会的健康状態の経時的変化の把握とその予測因子の特定を行い、本ガイドライン開発のための基礎資料を得ること、(3)【研究3】は高年初産婦に対する産後1か月の子育て支援のためのケアに関する国内外の文献をシステマティックレビューによって抽出、分析をしてエビデンスの総体を記述することであった。

### 4. 研究計画・方法

(1) 産後4か月間における産後の生活活動と身体的心理社会的健康状態に関する縦断研究【研究1】

首都圏にある3施設の協力を得て、高年初産婦の研究対象者(以下、高年群)は、①出産時に35歳以上の初産婦、②日本人、③母子ともに重篤な疾患の治療中でないこと、④先天異常児を除く、⑤多胎を除く、⑥分娩後入院中に少なくとも3日間の母子同室が可能な健康状態であること、を抽出条件とした。対照群の研究対象者は、出産時に20歳代の初産婦であり、他の条件は高年群と同様にした。産後入院中、産後1か月、産後2か月、産後4か月時に、高年群には生活活動測定や生化学検査(ストレス評価指標)、質問紙調査、半構成的面接調査を行い、対照群には産後入院中と産後1か月時に、生化学検査(ストレス評価指標)、質問紙調査を行った。質問紙調査の構成は、産後の蓄積疲労尺度、エジンバラ産後うつ病自己評価票(EPDS)、母親役割の自信尺度と母親であることの満足感尺度、基礎的情報であった。ストレス評価指標として、尿中17KS値及び尿中17OHCS値測定と、唾液中CgA(ChromograninA)濃度測定を行った。高年群の生活

活動について、アメリカ AMI 社製アクティグラフを用いて測定した。本研究では、産後入院中(経膣分娩の場合は産後3～5日目頃、帝王切開術の場合は産後4～6日目頃)、産後1か月時、産後2か月時、産後4か月時に、アクティグラフ機器を対象者に装着してもらい、それぞれ 48 時間(産後4か月:72 時間)、連続的に生活活動量を計測した。さらに、簡単な生活活動日誌を対象者自身に記録してもらい、生活活動について主観的・客観的データを収集した。

(2) 産後6か月間における褥婦の身体的心理社会的健康状態に関するコホート調査研究【研究2】

研究デザインは多施設前向きコホートデザインであった。産後入院中(産後1～3日目頃の募集で退院前日頃の回答)、産後1か月時、産後2か月時、産後4か月時、産後6か月時の計5回、質問紙調査を郵送法で行った。妊娠、分娩及び産後の医学的データ、及び児の医学的データは、研究に携わっている看護職者、リサーチナース、研究者によりカルテ及び母子健康手帳からの転記により収集した。質問紙の構成は①蓄積疲労度、産後の身体症状、日本版エジンバラ産後うつ病自己評価票(EPDS)、育児ストレスショートフォーム(PS-SF)、前原らの「母親役割の自信尺度と母親であることの満足感尺度」、②その他交絡因子:研究対象者の背景情報(学歴、婚姻歴、経済的要因、同居家族の構成など)、妊娠、分娩、及び産後の医学的データ、児の医学的データ、本調査の対象となる出産への準備と出産への満足度、児との生活状況(家事、睡眠、授乳、生活調整など)、入院中の看護への評価、支援ニーズ、ソーシャルサポートなどであった。

(3) 高年初産婦に対する産後1か月の子育て支援ケアに関するシステマティックレビュー【研究3】

公益財団法人日本医療機能評価機構が運営する医療情報サービス事業(Medical Information Network Distribution Service;Minds)の「診療ガイドライン作成ワークショップ資料集(暫定版、2013 年)」の作成手順を参考にして、文献検討と【研究1】【研究2】の結果から、クリニカルクエスチョン(Clinical Question;CQ)の構成要素(PICO)を検討し、5つの CQ を設定した。エビデンスの選択基準と除外基準の定義をして、既存のケアガイドライン、システマティックレビュー/メタアナリシス論文、個別研究論文を検索対象とし、PubMed, MEDLINE, PsycINFO, the Cumulative Index to Nursing and Allied Health Literature, the Cochrane Central Register of Controlled Trials, the Cumulative Index to Nursing and Allied Health Literature、医学中央雑誌の全年代(データベース開始時～2013 年7月まで)に対して、キーワードによる産科領域への絞り込みを実施するなど、系統的な検索を行った。結果を「評価シート(RCT 用、観察研究用)」にまとめ、CQ に対するエビデンス総体評価結果を「エビデンス総体用評価シート」に記述し、エビデンスの強さを決め、ガイドライン作成メンバーの全体会議で議論し、最終的な CQ に対する全体のエビデンスの強さと推奨文を決定した。

5. 研究成果・波及効果

(1) 【研究1】産後4か月間の縦断調査(高年群21名、比較群21名)によって、高年初産婦に対す

る子育て支援に関する予防的看護ケアが特に必要であるのは、産後入院中から産後1か月間であることが明らかになった。そして、日本人高年初産婦の子育て支援ニーズは、初産婦の子育て支援ニーズに加えて、35歳以上の母親であることに起因する子育て支援ニーズがあることが明確となった。さらに、若年者に比べて経験が豊かであることで大変な子育てを自分なりの意識変革で乗り越えるなど、高年初産婦の強みがあることも示された。また、高年初産婦の入院中の睡眠効率と疲労との相関、産後4か月間において総睡眠時間が疲労を推測すること、産後の蓄積疲労尺度と産後うつ病自己評価尺度得点との相関、蓄積疲労得点の高い者の子育て生活体験、入院期間の延長への要望などが明らかになった。以上より、出産後から産後1か月までの高年初産婦に特徴的な子育て支援ニーズとして、①産後の回復、蓄積疲労予防のための睡眠時間の確保と基本的ニーズの充足、②授乳方法などの修得と睡眠休息のバランスをとること、③自分中心の生活からわが子(新生児)中心の生活へ移行するための生活調整方法について情報を得ること、④産後の心身回復、疲労蓄積回避のための対処法や健康管理方法を学習すること、⑤私とわが子にあった授乳方法、育児方法を身につけること、などを明確にした。

(2) 【研究2】多施設前向きコホート調査研究は、平成24年4月から平成25年3月まで13施設(関東7施設、関西6施設)で対象者募集を行った。産後入院中に3,769名の研究参加の同意を得たが、産後入院中の質問紙回収は3,633名であった。そして、精神疾患の既往がある者、出生児がNICUに入院した者を除いて、入院中の質問紙について有効回答者は3,341名であった。産後1か月は、3,248名(89.4%)、産後2か月は、3,048名(83.9%)、産後4か月は2,890名(79.55%)、産後6か月は2,778名(76.47%)の回答を回収した。産後入院中、産後1か月ともに有効回答を得られたのは2,854名であり、この対象者を初経産と年齢によって4群、高年初産群(35-48歳)479名、若年初産群(17-34歳)1,038名、高年経産群(35-45歳)621名、若年経産群(20-34歳)716名に区分して、比較した。高年初産群は産後入院中、産後1か月において、①経産群に比べて疲労得点が高い、②母乳栄養率が低い、③産後1か月時点で肩こり、腰背部痛、腱鞘炎が多い、④経産群に比べて産後うつ病のリスクが有意にあり、⑤経産群、若年初産群に比べて母親役割の自信得点と母親であることの満足感得点が高い、という結果を得た。そこで、高年初産群の産後入院中と産後1か月の疲労得点、母乳栄養率、日本版EPDS9点以上の割合、母親役割の自信得点と満足感得点についてそれぞれ多変量解析を行うことによって、予測因子を特定し、高年初産婦の産後1か月間における子育て支援ケアのための基礎資料を得た。

(3) 【研究3】によって、5つのCQに対するガイドライン推奨草案を作成し、専門家による外部評価、パブリックコメントを受けて修正し、研究グループの合議のもとに、最終的なガイドラインを確定した。

#### (4) 波及効果

ある研究協力施設では高年初産婦の希望者向けに産後入院期間を長くするシステムを導入している。また、急増している高年初産婦の子育て支援は喫緊の社会的課題であることを反映し、本ガイドラインについて取材申し込みや講演依頼(3件)を受けている。また、本研究成果に基づいて文部科学省科学研究費助成金(基盤研究A)に申請し、採択された。

6. 研究発表等

<p>雑誌論文 計 7 件</p>	<p>(掲載済み一査読有り) 計5件</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 中沢恵美子, <b>森恵美</b>, 坂上明子. 35 歳以上で初めて出産した女性の産後入院中における母親としての経験. 日本母性看護学会誌, 2013, 13 巻, 1号, 17-24.</li> <li>2) <b>森恵美</b>, 土屋雅子, 佐伯章子, 岩田裕子, 前原邦江, 坂上明子, 小澤治美, 森田亜希子, 前川智子. 高年初産婦の産後入院中の睡眠期と覚醒期における身体活動量分析—夜間母子同室の有無による影響の検討—. 看護研究, 2014, 47(2), 136-148.</li> <li>3) Akiko Sakajo, <b>Emi Mori</b>, Kunie Maehara, Tomoko Maekawa, Harumi Ozawa, Akiko Morita, Kyoko Aoki, Hiroko Iwata. Older Japanese primiparas' experiences at the time of their post-delivery hospital stay. Journal of Nursing and Human Sciences. 2014; 20 (Suppl. 1), 9–19.</li> <li>4) <b>Emi Mori</b>, Hiroko Iwata, Akiko Sakajo, Kunie Maehara, Harumi Ozawa, Tomoko Maekawa, Akiko Morita, Akiko Saeki. Postpartum experiences of older Japanese primiparas during the first month after childbirth. Journal of Nursing and Human Sciences. 2014; 20(Suppl. 1), 20–31.</li> <li>5) 佐伯章子, <b>森恵美</b>, 土屋雅子, 岩田裕子, 前原邦江, 坂上明子, 小澤治美, 森田亜希子, 前川智子. 緊急帝王切開となった高年初産婦の産後 4 か月間の睡眠と身体症状の変化—産後の身体的回復が対照的であった 2 事例の検討—. 千葉大学大学院看護学研究科紀要, 2014, 36, 1-9.</li> </ol> <p>(掲載済み一査読無し) 計0件</p> <p>(未掲載) 計2件</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6) 前原邦江, <b>森恵美</b>, 坂上明子, 岩田裕子, 前川智子, 小澤治美, 森田亜希子, 青木恭子. 高年初産の母親の産後1か月間におけるソーシャルサポートの体験. 母性衛生 (accepted, 第 55 巻 2 号に掲載予定).</li> <li>7) 坂上明子, 前川智子, <b>森恵美</b>, 森田亜希子, 小澤治美, 前原邦江, 岩田裕子. 初産婦における産後入院中及び産後1か月の母乳育児確立状況—不妊治療の有無による相違—. 日本生殖看護学会誌 (accepted, 第 11 巻 1 号に掲載予定).</li> </ol>
<p>会議発表 計 24 件</p>	<p>専門家向け 計 20 件</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) <b>森恵美</b>. ワークショップ 高齢初産の子育て支援ニーズを探る. 京都, 2011/09/29-30, 第 52 回日本母性衛生学会総会・学術集会.</li> <li>2) <b>Emi Mori</b>, Akiko Saeki, Hiroko Iwata, Akiko Sakajo, Kunie Maehara, Harumi Ozawa, et al. A literature review of factors associated with physical and psychosocial well-being in Japanese postpartum women. Singapore, 2012/02/22-23, The 15th East Asian Forum of Nursing Scholars.</li> <li>3) Miyako Tsuchiya, <b>Emi Mori</b>, Hiroko Iwata, Akiko Sakajo, Kunie Maehara, Harumi Ozawa, et al. Changes in postpartum sleep quality: A descriptive study among Japanese first-time mothers over aged 35. Singapore, 2012/02/22-23, The 15th East Asian Forum of Nursing Scholars.</li> <li>4) 中沢恵美子, <b>森恵美</b>, 坂上明子. 35 歳以上で初めて出産した女性の産後入院中における母親としての経験. 神戸, 2012/06/16, 第 14 回日本母性看護学会学術集会.</li> <li>5) <b>森恵美</b>, 坂上明子, 岩田裕子, 小澤治美, 森田亜希子, 前川智子他. 日本における高年初産婦に対する子育て支援の課題. 千葉, 2012/09/15, 千葉看護学会第 18 回学術集会.</li> <li>6) <b>森恵美</b>. 教育講演 高年初産婦の産後の健康と子育て支援. 福岡, 2012/11/16-17, 第 53 回日本母性衛生学会総会・学術集会.</li> <li>7) <b>森恵美</b>, 坂上明子, 土屋雅子. 高年初産婦の産後入院中の看護ニーズについて. 東京, 2012/11/30-12/1, 第 32 回日本看護科学学会学術集会.</li> <li>8) <b>Emi Mori</b>, Akiko Sakajo, Hiroko Iwata, Kunie Maehara, Harumi Ozawa, Akiko Morita, et al. Change in physical and psychosocial health of Japanese first-time mothers over age 35 in the 4 months after childbirth. Bangkok, 2013/02/21-22, The 16th East Asian Forum of Nursing</li> </ol>

	<p>Scholars.</p> <p>9) Akiko Sakajo, <b>Emi Mori</b>, Kunie Maehara, Hiroko Iwata, Harumi Ozawa, Akiko Morita, et al. Relation of fatigue to depression and maternal role attainment 1 month after childbirth in Japanese first-time mothers over age 35. Bangkok, 2013/02/21-22, The 16th East Asian Forum of Nursing Scholars.</p> <p>10) <b>森恵美</b>, 岩田裕子, 坂上明子, 前原邦江, 小澤治美, 森田亜希子他. 高年初産婦の産後 1 か月間における子育て生活体験. 仙台, 2013/07/06-07, 第 15 回日本母性看護学会学術集会.</p> <p>11) 坂上明子, <b>森恵美</b>, 前原邦江, 前川智子, 小澤治美, 森田亜希子他. 高年初産婦の産後入院中における子育て生活体験. 埼玉, 2013/10/04-05, 第 54 回日本母性衛生学会総会・学術集会.</p> <p>12) 前原邦江, <b>森恵美</b>, 坂上明子, 岩田裕子, 小澤治美, 森田亜希子他. 高年初産婦の産後 1 か月における 子育て生活経験—疲労, うつ, 母親役割の自信, 満足感との関連から—. 埼玉, 2013/10/04-05, 第 54 回日本母性衛生学会総会・学術集会.</p> <p>13) <b>Emi Mori</b>, Kunie Maehara, Akiko Sakajo, Hiroko Iwata, Harumi Ozawa, Akiko Morita, et al. Postpartum progress patterns among first-time mothers over age 35 at 4 months after childbirth: Fatigue, depression, and maternal role attainment. Seoul, 2013/10/18, The 3rd World Academy of Nursing Science.</p> <p>14) <b>森恵美</b>, 坂上明子, 岩田裕子, 前川智子. 交流集会 高年初産婦の子育て支援ガイドラインの検討. 大阪, 2013/12/06-07, 第 33 回日本看護科学学会学術集会.</p> <p>15) <b>Emi Mori</b>, Kunie Maehara, Miyako Tsuchiya, Akiko Sakajo, Tomoko Maekawa, Hiroko Iwata, et al. Maternal role confidence and satisfaction among primiparae over 35 years of age during the first month after childbirth: Comparisons with other age or parity groups. Manila, 2014/02/20-21, The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars.</p> <p>16) Miyako Tsuchiya, <b>Emi Mori</b>, Akiko Sakajo, Tomoko Maekawa, Hiroko Iwata, Kunie Maehara, et al. Development of the Postnatal Fatigue Scale: an investigation of validity and reliability among Japanese mothers. Manila, 2014/02/20-21, The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars.</p> <p>17) Miyako Tsuchiya, <b>Emi Mori</b>, Akiko Sakajo, Tomoko Maekawa, Hiroko Iwata, Kunie Maehara, et al. Predictors of postpartum fatigue among Japanese primiparous women of advanced maternal age: a multivariate analysis. Manila, 2014/02/20-21, The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars.</p> <p>18) <b>Emi Mori</b>, Yoshimi Mochizuki, Miyako Tsuchiya, Akiko Saeki, Akiko Sakajo, Tomoko Maekawa, et al. Relationship between postpartum tenosynovitis and childrearing in the daily life of Japanese first-time mothers. Manila, 2014/02/20-21, The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars.</p> <p>19) <b>Emi Mori</b>, Yoshimi Mochizuki, Miyako Tsuchiya, Akiko Saeki, Akiko Sakajo, Tomoko Maekawa, et al. Prevalence and persistence of physical problems in mothers during two months postpartum. Manila, 2014/02/20-21, The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars.</p> <p>20) Akiko Sakajo, Tomoko Maekawa, <b>Emi Mori</b>, Akiko Morita, Miyako Tsuchiya, Kunie Maehara, et al. Factors associated with breastfeeding among older Japanese first-time mothers during hospitalization. Manila, 2014/02/20-21, The 17th East Asian Forum of Nursing Scholars.</p> <p>一般向け 計 4件</p> <p>1) <b>森恵美</b>. 最先端・次世代研究開発支援プログラム 国民との科学・技術対話 広がる看護職者の仕事 高年齢で初めて出産した母親の子育て支援ニーズを探る～あなたの意見をお聞かせください～. 高知, 2011/12/03. 独自企画.</p> <p>2) <b>森恵美</b>, 坂上明子, 土屋雅子. 最先端・次世代研究開発支援プログラム 国民との対話・技術対話 広がる看護職者の仕事 2012「高年初産婦への子育て支援ガイドラインの開発を目指して」. 東京, 2012/12/01, 独自企画.</p>
--	--

	<p>3) <b>森恵美</b>, 坂上明子. 市民公開講座「最先端・次世代研究開発支援プログラム 国民との科学・技術対話 エビデンスに基づく高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの開発」. 埼玉, 2013/10/05, 独自企画, 公益社団法人日本母性衛生学会後援.</p> <p>4) <b>森恵美</b>, 坂上明子, 土屋雅子, 前原邦江, 岩田裕子, 前川智子他. 国民との科学・技術対話「広がる看護職者の仕事 2013」第1部「研究成果による高年初産婦への子育て支援ガイドラインの開発」. 大阪, 2013/12/07, 独自企画.</p>
<p>図書 計2件</p>	<p>1) 執筆代表者: <b>森恵美</b>. 高年初産婦に特化した産後1か月までの子育て支援ガイドライン. 全267頁, 研究グループ作成, 2014.</p> <p>2) 執筆代表者: <b>森恵美</b>. 平成22～25年度最先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム)(課題番号:LS022)「日本の高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの開発」研究報告書, 全73頁, 研究グループ作成, 2014.</p>
<p>産業財産権 出願・取得 状況  計0件</p>	<p>(取得済み) 計0件  (出願中) 計0件</p>
<p>Webページ (URL)</p>	<p>ママたす(mama+) <a href="http://www.mamatasu.jp/">http://www.mamatasu.jp/</a> 活動報告で研究成果を報告する他、子育て情報の配信や意見募集等を行っている。</p>
<p>国民との科学・技術対話の実施状況</p>	<p>1) <b>森恵美</b>. 最先端・次世代研究開発支援プログラム 国民との科学・技術対話 広がる看護職者の仕事 高年齢で初めて出産した母親の子育て支援ニーズを探る～あなたの意見をお聞かせください～. 高知(高知城ホール), 2011/12/03. 一般の方対象に参加費無料で、独自企画を行った。参加者の人数は、46名であった。文献検討の結果を分かりやすく伝えたところ、高年初産婦の体験談、留学中に海外の高年初産婦の子育て状況の話などが意見として出され、本研究の意義や必要性を参加者に理解をいただけたと考えている。</p> <p>2) <b>森恵美</b>, 坂上明子, 土屋雅子. 最先端・次世代研究開発支援プログラム 国民との対話・技術対話 広がる看護職者の仕事 2012「高年初産婦への子育て支援ガイドラインの開発を目指して」. 東京(東京国際フォーラム), 2012/12/01. 独自企画を参加費無料で行った。HPと「ママたす友の会」のメールマガジン、第32回日本看護科学学会学術集会において広報を積極的に行った結果、看護師以外の一般参加者38名を得ることができた。研究1の成果、本ガイドライン開発のためのエビデンスづくりについて講演し、有意義な意見交換ができた。</p> <p>3) <b>森恵美</b>, 坂上明子. 市民公開講座「最先端・次世代研究開発支援プログラム 国民との科学技術対話 エビデンスに基づく高年初産婦に特化した子育て支援ガイドラインの開発」. 埼玉(大宮ソニックシティ), 2013/10/05. 公益社団法人日本母性衛生学会の後援を得て、第54回日本母性衛生学会総会・学術集会の1会場を借りて、一般の方向けに独自企画(参加費無料)で実施した。研究1の成果、多施設前向きコホート調査研究(研究2)の成果とガイドライン開発の過程をわかりやすく説明した。参加者は看護職者及び当事者を含めて約200名であり、研究成果からガイドラインが開発される過程がわかり、ガイドラインの完成と活用を期待しているという感想を得た。</p> <p>4) <b>森恵美</b>, 坂上明子, 土屋雅子, 前原邦江, 岩田裕子, 前川智子他. 国民との科学・技術対話「広がる看護職者の仕事 2013」第1部「研究成果による高年初産婦への子育て支援ガイドラインの開発」大阪(大阪国際会議場), 2013/12/07. 一般の方を対象にして、参加費無料で行った。HPと「ママたす友の会」のメールマガジン、第33回日本看護科学学会学術集会開催通知と一緒に広報を積極的に行った結果、看護師を含めて約70名の参加を得ることができた。多施設前向きコホート調査研究(研究2)の成果を紹介し、システムティックレビューを含めたガイドライン開発の過程をわかりやすく説明した。</p>



様式21

<p>新聞・一般雑誌等掲載 計3件</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医学新聞『Medical Tribune』(メディカルトリビューン). <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">高年初産婦</span> 子育て支援ガイドライン開発目指す. 2011年11月24日号(Vol. 44, No. 47), 27ページ</li> <li>2) 朝日新聞朝刊. 「40代出産 身体に負担、ケアの模索」. (2013年6月15日)</li> <li>3) 森恵美: 産後ケアのニーズと子育て世代の高齢化, 月刊「母子保健」, 2014年1月号(第667号), 6-7, 2014</li> </ol>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出産専門ジャーナリスト河合蘭氏からの取材を受けた。その結果が、文春新書「卵子老化の真実」(河合蘭著, 文藝春秋, 2013)の210-211頁に掲載された。</li> <li>・2014年2月28日、FIRSTシンポジウム「『科学技術が拓く2030年』へのシナリオ」におけるNEXTライフ・イノベーション・ポスターセッションにおいて、FIRST、NEXTそして来場者による投票によって銅賞(3位)に選ばれた。</li> <li>・平成26年3月に開発したガイドラインについて、朝日新聞東京本社科学医療部の記者 岡崎明子氏の取材申し込みがあった。</li> </ul>

7. その他特記事項